

# 関東・東北豪雨を受けた「避難を促す緊急行動」

## 出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等を首長と確認

— 琵琶湖河川事務所 —

この度の平成27年9月関東・東北豪雨により、全国各地において浸水被害等が発生しており、特に鬼怒川の堤防が決壊した茨城県常総市では、約1万1千棟が浸水するなど甚大な被害が生じました。今回の水害を受け、

- [1]堤防決壊に伴う氾濫流による家屋の倒壊・流失
- [2]地方公共団体による避難判断、広域避難
- [3]避難の遅れと長時間・広範囲の浸水による多数の孤立者の発生

この3点を対処すべき主な課題と捉え、全国の市町村長や堤防沿いにお住まいの住民の方々の不安や懸念に応えるための「避難を促す緊急行動」を実施することとし、その一環として洪水予報、ホットラインなど出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等を**守山市長**、**野洲市長**と確認しました。

引き続き滋賀県内関係市へ順次説明を実施していきます。

### 概要

対象河川：淀川水系野洲川



- 日時：平成27年11月13日（金）10:00～11:30
- 場所：野洲市総合防災センター
- 参加者：守山市長、野洲市長、滋賀県、国土地理院、気象庁、滋賀国道事務所、琵琶湖河川事務所、

### 【確認内容】

- ・関東・東北豪雨に係る被害及び復旧状況
- ・基準水位観測所設定水位
- ・ホットライン（事務所長から市町村長へ直接連絡）での情報提供内容
- ・重要水防箇所
- ・タイムラインの効果
- ・災害時にトップがなすべきこと



その他、市長が避難勧告発令の目安とする「氾濫危険水位」など河川管理者が出す情報の活用を確認した上で、こうした情報を提供するまでの連絡を密に取り合うこと、水防上重要な区間について状況をリアルタイムで把握し、ホットラインで伝えること、時系列の氾濫シミュレーションを踏まえた避難判断の必要性を確認しました。

### 【首長からの主な意見】

- ・携帯電話でやりとりするホットラインは有効であると考えている。
- ・情報伝達の必要性は認識しているが、伐木するなどして、流下断面の確保もしっかりと対応していただきたい。
- ・災害対策は、場当たりの行うものではなく、思想をもって行うべき。また、土地勘や知恵を十分活かす工夫が必要。

### 報道

以下の報道機関に記事等を取り上げられました。

- びわこ放送  
11月13日(金) キラりん滋賀  
「野洲川の洪水対応などを検討  
12月に5市と国・県の懇談会発足へ」
- 京都新聞 11月14日(土)朝刊  
「安全懇談会来月設立  
野洲川氾濫に備え国と5市長避難情報を共有」
- 中日新聞 11月14日(土)朝刊  
「野洲川流域 国が守る  
県、5市長と「安全懇話会」
- 11月13日(金) ニュースCATCH  
「野洲川の洪水対応など検討」

### 【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局  
琵琶湖河川事務所調査課  
〒520-2279  
大津市黒津4-5-1  
TEL 077-546-0867

